

2010年度

科目名	日本民俗学B		
担当教員	角南 聡一郎		
配当	文 2・教育2・人間2	コード	55000
開期	後期	講時	金曜日5限
		単位数	2
授業テーマ	モノからみた民俗学		
目的と概要	農具、漁撈具などを題材に、考古資料も含めたモノをめぐる民俗学を紹介します。さらに、民俗学・民具学が現代社会にとどのようにかかわるべきかを、博物館における民具などの展示の問題と関連させながら考えていきます。		
成績評価法	平常点(40%)及び授業時の不定期試験(30%)とレポート(30%)により総合的に成績評価を実施します。		
テキスト			
参考書	宮本常一 1979『民具学の提唱』未来社 工藤員功編 2008『絵引 民具の事典』河出書房新社		
履修に当たっての注意・助言	レポートのために、図書館での検索と実際のフィールドワークをおこなっていただきます。		
講義計画			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 民俗学と農耕用具(1) 原始・古代の農耕用具について 2. 民俗学と農耕用具(2) 中世・近世の農耕用具について 3. 民俗学と農耕用具(3) 近現代の農耕用具について 4. 民俗学と漁撈用具(1) 原始・古代の漁撈用具について 5. 民俗学と漁撈用具(2) 原始から近世の漁撈用具について 6. 民俗学と漁撈用具(3) 近現代の漁撈用具について 7. 民俗学と山樵用具(1) 中世・近世の山樵用具について 8. 民俗学と山樵用具(2) 近現代の山樵用具について 9. 民俗学と生活用具(1) 原始・古代の生活用具について 10. 民俗学と生活用具(2) 中世・近世の生活用具について 11. 民俗学と生活用具(3) 近現代の生活用具について 12. 民俗学と信仰用具(1) 原始から近世の信仰用具について 13. 民俗学と信仰用具(2) 近現代の信仰用具について 14. 現代のものづくりと民俗学 現代社会のものづくりと職人との関係を考察する。 15. 民俗学・民具学の今日的意義と可能性 民俗学・民具学は現代社会においてなぜ必要か？博物館活動とどのように関わっていくべきかを時事問題に照らしながら考える。 			